

平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、「開かれた学校づくり」を推進し、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。このような取組を通して、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成21年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成21年4月21日（火）

3 調査対象

第3学年

4 本校の参加状況

① 国語A	263	人	国語B	263	人
② 数学A	263	人	数学B	263	人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」などの分析を併せて記載した。

II 調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

ほとんどの項目で、全国の平均を上回る結果を出せている。落ち着いた学習環境の中で、学習に取り組もうという意欲が表れている。

<分類・区分別集計結果>

【国語A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	4	91.5	88.8	86.8
	書くこと	3	73.9	68.1	64.6
	読むこと	10	77.7	77.1	75.7
	言語事項	17	77.7	76.7	76.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0			
	話す・聞く能力	4	91.5	88.8	86.8
	書く能力	3	73.9	68.1	64.6
	読む能力	10	77.7	77.1	75.7
	言語についての知識・理解・技能	17	77.7	76.7	76.0
問題形式	選択式	19	78.9	77.9	76.0
	短答式	14	79.8	78.4	78.4
	記述式	0			

【国語B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	0			
	書くこと	5	75.1	74.5	72.5
	読むこと	11	77.0	76.5	74.5
	言語事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	74.0	73.1	70.8
	話す・聞く能力	0			
	書く能力	5	75.1	74.5	72.5
	読む能力	11	77.0	76.5	74.5
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	3	73.9	72.3	70.2
	短答式	3	83.3	83.9	82.0
	記述式	5	75.1	74.5	72.5

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

【話すこと・聞くこと】

「効果的なスピーチをするために話の展開を工夫する」項目では、高い正答率を示している。

【書くこと】

- 「自分の考えを表現する」ことに対して、やや苦手意識が表れている。

【読むこと】

- 全体的な理解度は高いが、「短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむ」面で、深まりが必要である。
- 答えを述べる・見つける段階で、その根拠を明確にする支援が必要である。

【言語事項】

- 「文脈に即して漢字を正しく書く・読む」項目での復習が必要である。
- 古文の中での仮名遣いの確認や、現代語訳との対照に深まりが必要である。
- 同音異義語などを改めて学習し、語彙を深める。

【その他】

幅広く読書をし、特に日本文学の名作等に触れる機会をふやすことが必要である。

国語に関する生徒質問紙調査の状況

《傾向》

○国語の学習への取り組みについては概ね良く、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いかけに対して、肯定的な回答を多くの生徒(74.2%)がしている。学ぼうとする必要性が良く理解できている

- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」との問いかけに対して、苦手意識を感じる生徒が多く(肯定 38.7%)、生徒それぞれが自分の意見や考えを伝え合う姿勢と意欲の深まりが必要である。

指導改善のポイント

話すこと・聞くこと】

文化祭の生徒発表や、テレビの討論番組などを視聴し、意見や考えを伝える際の工夫を見出すなど、日常生活の中からも学ぶ意識を高める。

【書くこと】

「めあて」を持って文書を書くことを念頭に置き、「読み手」をきちんと想定して文章を書く機会を増やす。

【読むこと】

今後も継続して、読む「深まり」を見出すことが必要である。

【言語事項】

日常生活の中でも漢字を積極的に使い、文脈に沿った適切な使い方ができるように継続して指導する。

適切な語句の選択については、日常会話の中から、場に応じた言葉遣いを意識させる。

2 数学

全体的な傾向

- ・数学 A(知識)の平均正答率は 67.5%で、全国・県平均より 5%弱高くなっている。
- ・数学 B(活用)の平均正答率は 63.9%で、全国平均よりは 7%、県平均よりは 6%高くなっている。落ち着いた学習環境の中で学習に取り組んでいる成果が現れたと思う。

<分類・区分別集計結果>

【数学A】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	11	73.0	67.7	67.3
	図形	11	68.6	66.7	64.6
	数量関係	11	60.8	57.7	56.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な表現・処理	9	68.8	64.5	63.7
	数量・図形についての知識・理解	24	67.0	63.9	62.3
問題形式	選択式	20	65.6	62.3	60.5
	短答式	13	70.4	66.7	66.1
	記述式	0			

【数学B】

分類	区分	対象設問数	平均正答率 (%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	3	67.0	63.0	61.4
	図形	6	65.0	59.3	57.5
	数量関係	6	61.1	54.7	54.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	12	60.1	53.7	52.4
	数学的な表現・処理	2	75.3	71.0	70.1
	数量・図形についての知識・理解	1	85.9	86.4	85.3
問題形式	選択式	6	69.9	63.3	61.6
	短答式	4	75.5	71.1	70.3
	記述式	5	47.3	41.7	40.6

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

【数と式】

○A 文字式の意味を読み取ることや方程式を解くこと、一次関数の式を求めることに関しては、全国・県平均より12%高くなっており、等式の変形に関しては15%以上高くなっている。

●B 全国・県平均よりは5%高い結果と待っているが、筋道を立てて考え、事柄が一般的に成り立つ理由を説明することに関して、無回答率が高くなっている点が課題である。

【図形】

●B 全国・県平均より7%高い結果となっているが、方針にもとづいて証明することに対し、無回答率が高くなっている点が課題である。

【数量関係】

●A 全国・県平均より5%高い結果となっているが、反比例に関する知識理解率が50%を下回っている。

●B 全国・県平均より6%高い結果となっているが、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が残る。

【その他】

● 全国・県平均に比べて正答率は高くなっているが、反面無回答率も平均を上回っている問題が多い。学習への意欲がない生徒への指導が今後の課題と思われる。

数学に関する生徒質問紙調査の状況

《傾向》

- 「数学ができるようになりたい」「数学の授業で学習したことは、将来社会にでたときに役立つと思いますか」の問いかけに対して肯定的な回答をしている生徒が多い。学ぼうとする必要性が良く理解できている。
- 「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の問いかけに対して肯定的な回答をしている生徒が少ない。身近な題材を利用した導入や活用を今まで以上に取り上げていく必要があると思われる。

指導改善のポイント

【数と式】

・正の数と負の数の計算や文字式の計算など、基本的な計算のしかたについて十分理解を深めた上で、反復練習を行い、より確実な定着を図る。

・条件にあった式を作るなど、問題解決の見通しから数学的な表現力を高めるために、文字式の知識や技能を活用して身近な事象や数量の関係などをとらえる機会を充実する。

【図形】

・図形の位置関係や基本的な性質の理解を深めるために、観察や実験、具体物操作やコンピュータによるシミュレーションなどを積極的に導入し、実感が伴う、視覚的に理解する活動を一層充実する。

【数量関係】

・日常的な場面の事象をグラフにしたり、グラフから情報を読みとったりする活動を多く取り入れ、関数的な見方考え方に慣れ、数学的に処理する力を高める。

【その他】

・より効果的な習熟度別学習の工夫改善とともに、授業での学習のしかたの徹底、宿題や課題など家庭学習の充実を図ることで、基礎・基本の確実な定着をねらう。

・「分かる授業の展開」を一層推進し、生徒の興味や関心意欲を高めるために、数学的な活動や問題解決的な学習を積極的に取り入れる。

3 生徒質問紙調査

●…課題があるもの

《傾向》①宇都宮市教育委員会にならい、「学校教育スタンダード」との関連の深い質問について取り上げる。

- 「人がこまっているときは、進んで助けていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は74.0%（市73.8 全国72.2）でわずかながらも高い。
- 「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか」の質問に対して「2時間より少ない」と回答した割合は39.4%（市36.3 全国35.0）で見たり聞いたりしていない。
- 「朝食を毎日食べていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は93.5%（市94.2 全国92.4）で全国よりは1.1%上回っている。
- 「学校の授業以外に普通（月～金曜）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」において、「3時間以上」の回答は8.8%で、県より0.5%高い。「2時間以上」の回答は、36.4%（市36.8 全国35.2）で全国よりは1.2%高い。
- 「近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は82.0%（市81.7 全国83.0）で市平均よりは高い。
- 「学校の規則を守っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は86.2%（市88.5 全国88.6）で低い。
- 「家や図書館で、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間読書しますか」において「30分以上」の回答は24.1%（市29.2 全国26.6）で低い。

②宇都宮市教育委員会にならい、「正答率と関連の深い質問」について取り上げる。

- 「家で学校の宿題をしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は80.5%（市80.4 全国83.0）で市平均よりはわずかに高いが、全国より2.5%低い。
- 「読書は好きですか」の質問に対する肯定的な回答の割合は66.7%（市73.5 全国67.4）で市、全国より低い。
- 「携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は41.4%（市44.7 全国36.7）で市より低い。
※31.4%（市32.6 全国43.5）の生徒が「携帯電話を持っていない」と回答。
- 「家の人と学校での出来事について話をしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は55.2%（市61.3 県61.6 全国59.8）で市県全国より低い。

③その他 全国平均と比べて大きく上下している項目について取り上げる。

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は47.2%で、県平均より7.4%、全国平均より9.5%上回る。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は61.7%で、全国と比べて1.7%高い。
- 「新聞やテレビのニュースに関心がありますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は74.8%で、県より5.0%、全国平均と比べて8.6%と大きく上回る。
- 「総合的な学習の時間」の勉強は好きですかの質問に対する肯定的な回答の割合は、50.2%で県平均より19.3%低く、全国と比べても10.3%低い。
- 「携帯電話で通話やメールをしていますか」に対する回答の割合は62.1%で、全国平均を7.7%上回り、さらに県平均も8.6%上回る。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対する肯定的な回答の割合は31.8%で、全国平均と比べて6.2%低い。

◆改善策

- 新聞やテレビのニュースには関心があるので、図書だよりに頼ることなく、学級担任や教科担任がおすすめ読書などを紹介し、読書好きな生徒をさらに育てていきたい。
- 規範意識を高めることやいじめを無くすことをめざし、陽東学区（小中一貫）でも重点項目に掲げ様々な取組みを実施する。
- 家庭学習については申し分ないが、さらに指導を加えていきたい。
- 携帯電話でメールをしている割合が高いが、使用に当たってのルールづくりを家庭にお願いしていく。
- コミュニケーション能力を高めることを目指し、互いに伝え合うことを目的とした「場」の明確化をはかるなど、授業での学びあいの時間を設定する。